



2026年5月12日

各位

会社名 OUGホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 橋爪 康至  
(コード番号:8041 東証スタンダード市場)  
問合せ先 取締役 総合企画グループ・情報企画  
グループ担当 中村 耕  
(TEL. 06-4804-3031)

### 「OUGグループ 中期経営計画 2024」の進捗について

当社グループは、2024年5月10日に2024年度から2026年度まで（3カ年）の中期経営計画を開示いたしました。つきましては、2年目の進捗状況を下記の通りご報告いたします。

また、中期経営計画の最終年度に当たる2026年度につきましては、近時の事業環境を踏まえ、当初計画を本日開示の決算短信の内容の通りに上方修正し、取組みを進めてまいります。

#### 記

##### 1. 事業の進捗

水産物荷受事業が販売単価の上昇の反面、コストの上昇もあって増収・減益となり、市場外水産物卸売事業も外食・宿泊・インバウンド関連需要が好調で増収となりましたが、コストや販管費の増加により減益になりました。また、養殖事業は主力の養殖ブリの販売単価が上昇し、継続したことなどから、期初に設定したグループ経営目標（2026年3月期）を大幅に上回る実績となりました。

##### (1) 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2025年3月期（実績）	350,092	5,100	5,891	4,527
2026年3月期（計画）	338,000	4,100	4,100	—
2026年3月期（実績）	363,666	6,335	6,811	5,379
差異	+25,666	+2,235	+2,711	—
2027年3月期（修正後計画）	355,000	4,600	4,800	3,200

##### (2) ROE、ROIC

(%)

	ROE	ROIC
2024年3月期（実績）	12.7	4.1
2025年3月期（実績）	13.6	6.4
2026年3月期（実績）	14.0	7.5
2027年3月期（計画）	8.0	5.0

## 2. その他の取組みの進捗

### (1) 財務戦略

政策保有株式の計画的、継続的な縮減に取り組んでおり、2026年3月期中に当社保有の2銘柄の全株式と4銘柄の一部株式を売却し、投資有価証券売却益669百万円を損益計算書に計上しております。

配当方針の変更を決議し、配当決定の基準とする連結株主資本配当率(DOE)を1.6%から2.4%に引き上げました。この結果、2026年3月31日を基準日とする配当は、70円/株の増配となる167円/株となっております。

グループ運転資金の圧縮にも取り組んでおり、グループの資金調達を当社に一元化するとともに、キャッシュマネジメントシステムを構築する取組みが完了し、グループ内資金の効率的な運用に努めております。

### (2) 人事戦略

グループとして整合性のある新しい人事制度(等級制度、評価制度等)や採用方法等の検討を行うため、当社および主要事業会社である(株)うおいち、(株)ショクリューの人事担当部署によるプロジェクトを立ち上げ、2027年3月迄に枠組みを確立すべく進めております。また、後継者育成計画にもとづき、グループの取締役・執行役員、部長層が各々対象の研修を実施しました。

グループ共通の福利厚生制度としては、従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブ制度の導入、グループ役職員を対象にした新団体定期保険に加入しました。今後、更に福利厚生を充実させるため、精密検査費用保険の導入等も進めてまいります。

### (3) システム戦略

基幹システムの再構築の取組みについて、(株)うおいち、(株)ショクリューとも、鋭意、開発を進めております。(株)ショクリューについては、2025年7月に東日本支社量販部を本稼働させ安定運用しており、今後は、来年度を目標に西日本支社、関西支社量販部の稼働開始を目指しております。

なお、基幹システム刷新で整ったデータを、グループの価値創出に利用できるよう生成AI利活用の検討を始めました。また、情報基盤環境や業務システムのクラウド移行、セキュリティ面の強化等の構築も進めており、更なる業務効率化を図っております。

### (4) IR戦略

投資家等への事業内容・業績等のIRの強化の一環として、四半期決算ごとに決算説明資料を作成し開示しております。また、個人投資家向け決算説明サイトへの年2回の掲載を実施しております。

さらなるIR体制強化のため、社内横断的な実務チームを立ち上げ、施策の検討を始めております。

### (5) 品質保証システムの構築

グループ共通の取組みとして、各社において品質保証活動計画を策定し、PDCAに基づく運用を継続して行っております。新しく構築したクレーム報告の一元管理の仕組みは、現在、グループ内で安定的に運用されており、情報の収集・分析・共有を通じて品質管理の強化を継続的に行っております。

### (6) サステナビリティの取組み

当社グループ共通の取組みとして、「OUG グループ サステナビリティ・ガイドライン」を作成し、サステナビリティ対応を推進しております。特定した6つのマテリアリティである気候変動による地球環境変化への対応、環境負荷低減による持続可能な調達、食品ロス・廃棄物の削減、安全・安心な食品

の提供、多様な人材の活躍と社内環境の整備、人権問題への対応について、進捗をはかる指標である KPI の策定をグループの主要な事業会社と共に進めております。

また、マテリアリティの一つである気候変動による地球環境変化への対応として、海外事業所を除く国内事業所の温室効果ガス (GHG) 排出量の算定を進めており、6月発行の有価証券報告書にて開示の予定です。

### 3. 中期経営計画（業績目標）の一部修正について

#### (1)2027年3月期目標の修正内容

	売上高	営業利益	経常利益
2026年3月期実績	363,666	6,335	6,811
2027年3月期当初目標(A)	341,000	4,300	4,300
2027年3月期修正目標(B)	355,000	4,600	4,800
増減(B-A)	+14,000	+300	+500

#### (2)修正理由

「1.事業の進捗」に記載の通り、水産物荷受事業、市場外水産物卸売事業ともに増収基調にあります。が、為替や水揚げの減少に伴い、商品調達コストが今後も大幅に上昇する環境下にあります。水産物価格は堅調に推移する見込みを立てていますが、消費者の節約志向は引き続き強く、消費や販売環境は厳しい状況が継続すると予想されます。養殖事業も世界的な養殖餌料の価格上昇や高水温での厳しい環境下での事業運営を強いられると予想しております。

以上の環境認識のもと、当社グループの中期経営計画を上記の通り当初目標を修正いたします。

以 上